会議結果報告書

１　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（香川自治会）
２　日時	平成 30 年 9 月 1 日（土）17：00～18：00
３　場所	香川自治会館
４　出席者	（資源循環課）原田副主査、小田副主査 （環境事業センター）関原主査、加茂主任 （香川自治会）参加人数：22 人
５　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●まちぢから協議会で戸別収集は実施しないと説明があったのに、なぜ半年程で実施するような考えに移行したか。 →戸別収集の実施はないと説明したのではなく、既に、実施している先行市では、戸別収集には相当の経費がかかっており、本市が実施するには難しいであろうという説明を行ったが、地区によっては、戸別収集について是非検討し、今後の説明会等で、戸別収集についての説明を盛り込んで丁寧に説明してほしいと要望があったため、今回、単位自治会の意見交換会において、詳しく説明を行うこととした。現在、環境事業センターの職員が、戸別収集を導入した場合に係る経費の調査を実施しているが、その結果を踏まえて、実施の有無を検討したい。 ●国や県よりもごみ処理経費が高くなっているのはなぜか。 →比較の目安としてお示ししているものであり、自治体の規模やごみ処理の方法などで一概に比較はできないが、茅ヶ崎市が比較的高い理由としては、ごみ処理を直営で実施しているのが１つの理由となっている。 ●生垣の補助金が廃止され、ブロック塀が増加しているが、緑の減少を抑制するために、有料化をした場合には、伐採ごみについては特別な配慮をしてほしい。 ●ごみの有料化に反対である。公務員の定年が 65 歳まで延長されていることが予定されているが、これは市民にとっての大きなコスト負担である。まずは、市が身を削ってから有料化を検討してほしい。 ●ごみの減量化だけでなく福祉に関する事業についても減量化をしてほしい。福祉部局と連携して取り組みを行うと良いのではないか。 ●障がい者に対して、既に戸別収集を行っているのではなかったか。 →障がい者と高齢者でごみ捨てをしたくてもできない単身者等に対して、安否確認を含めて「安心まごころ収集」という戸別収集を実施している。

	●戸別収集に係る1人あたりの経費はどれくらいか。 →戸別収集における1人あたりの経費については算定できていない。なお、藤沢市では、戸別収集を実施するのに10億円の経費がかかっており、それを藤沢市の人口である約40万人で割り返した金額が藤沢市でいうところの戸別収集に係る1人あたりの経費と考えられる。算出すると、一人当たり2,300円程度となり、有料化による収益が、1,500円程度であるため、１人あたり約800円の赤字となる。 ●戸別収集を実施するには車輌や人件費が増加するが、外部委託をすれば解決するのではないか。 →適宜、効率的な方法について検討する。 ●有料化・戸別収集の方針決定は31年度のいつ頃となるか。 →平成31年10月頃を予定している。 ●県内で有料化していない市町村はどこか？ →県内19市において、有料化を実施しているのは、大和市、藤沢市、鎌倉市、逗子市の4市である。 ●戸別収集と有料化を併せて実施するのではなく、現在の集積場所を使用し指定袋でごみ出しをする有料化を先に実施した方がよい。 ●燃やせるごみは全て有料化の対象となるか。 →先行市では、ボランティアごみや剪定枝、おむつなどの生活からやむを得ずでてしまう燃やせるごみについては、有料化の対象としていない。 ●知ってる？紙の分別を各戸に配布したい。 ●中国が資源物の輸入をストップしたことによる茅ヶ崎市の影響はあるか。 →現在のところ影響は受けていないが、将来的に、資源物の売却益に影響が出て、市場の値崩れの発生が懸念される。 以上